



現場から（最近のニュースから）

## 自分探し



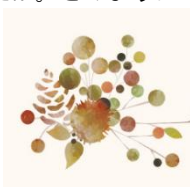
夏休みの宿題によく出る読書感想文ですが、多くの人が苦手なので、書き方について脚本家の三谷幸喜さんがTBS系「新・情報7days ニュースキャスター」でアドバイスしたという記事がありました。少し前に三谷さんは「あらすじを書かないことと、どう気持ちが変わったかをテーマにして書くこと、自分がどう変わったかを書けばいい」と言ったそうです。そうしたら、「それは文章力がある人の言葉だ。文章力がない人は何も書くことがないんだ。だから、あらすじを書くんだ」と叱られたそうです。そこで、あらすじの書き方を教えますと言われました。

三谷さんは「あらすじと言ってもストーリーを全部書くと大変じゃないですか。そういう時、どう取捨選択するかというと、その小説のテーマが何かを考えれば、そのテーマに沿ったストーリーをあらすじの中から紡ぎ出していけばいいわけです」と言われます。そして、そのテーマは「この世の中にある物語の9割は同じテーマで、自分探し！これ以外のテーマはないと言ってもいいぐらいです。どんな物語も最終的には自分探しなんです」と言われたということです。

「主人公が変わっていく。変化していく。桃太郎だってそうですよ。桃から生まれて自分探しをしていくんです。鬼滅（の刃）は（竈門）炭治郎が自分探しをしていくんです。ルパン3世だって自分探しですよ、ルパン3世の。探し求めているんです」と言い切って、「と思うと、今、読んでいる小説のテーマも自分探しだと思えば、そこから逆算して、この自分探しはどういう物語になっているんだろうって考えていけば、大体分かる感じになっていくと思いますけどね」と結論づけたということです。（8月31日スポーツ報知＜三谷幸喜氏が断言「この世の中にある物語の9割は同じテーマなんです」…ずばり4文字で説明＞より）

ほとんどの物語のテーマは「自分探し」であると言われていますが、探して自分を見つけたという結果を言いたいのではなく、探して行く過程が物語になっているということでしょう。物語の9割が「自分探し」をテーマにしている、それが読まれているということは、私たちも自分探しをし続けているということではないのでしょうか。「自分は何のために生まれて、なにをして生きていくのか。」アンパンマンのマーチの歌詞でも「わからないまま終わる。そんなのはいやだ」と言われているのですが、ほんとうにそれを知ることができた人はどれくらいいるのでしょうか。

あなたは、自分探しをし続けていますか。それとも、すでに自分を見つけましたか。どのようにして見つけたら良いのか、また、見つけてどうするのでしょうか。それらのことを知るには、まず人間とはどんな存在かを知る必要があります。あなた自身を見つけるためにも、いっしょに人間とはどんな存在かを見てみませんか。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」